

(様式1)

令和7年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 057	提案機関名 公益財団法人 相模湾水産振興事業団
要望問題名 相模湾の藻場・漁場調査及び藻場図面の作成について	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 ○ 平成21年に腰越地先の天然ワカメ不漁の件で、地元漁協が原因の調査を県水産技術センター相模湾試験場に依頼し、同試験場がRVO（水中カメラロボット）による調査を実施し、海中の様子を詳しく観察することが出来、漁業者の助けになった。 ○ また、近年、海底のシルト化や藻場の荒廃等が進み、漁業生産力の低下が懸念されている。 ○ このようなことから、自分たちの漁場の状況を把握したいという漁業者からの要望が強く、今後も引き続き、同試験場のRVO等による調査の実施を要望します。 ○ 今後、藻場の保護のため、調査により藻場の特定を行い、相模湾の藻場図面の作成をお願いしたい。また、藻場は稚魚等の成育場として大きな役割をしており、藻場海面上での漁業規制（網入れ規制等）の導入を要望します。 ○ 近年養殖ワカメの生産が不漁と聞いているが、これらの原因と対応指導を要望します。	
解決希望年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター ②畜産技術センター ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備 考	

回答機関名	水産技術センター	担当部所	相模湾試験場、企画研究部
対応区分	①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名 (①、②、④の場合) 藻場再生技術高度化試験			
対応の内容等 相模湾試験場のROV等による漁場調査は、貴事業団や県内漁業関係者等の要望により、引き続き実施します。 藻場の分布の把握について、漁業者への聞き取りやROVによる現地確認等により調査を行っており、令和6年度をめどにとりまとめる予定です。 養殖ワカメの不漁の要因として、高水温や魚類の食害などが考えられます。各地域の情報を収集し、有用な情報があれば提供するとともに、高温化でも育つワカメの導入などについて情報収集や助言等いたします。			
解決予定年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備 考			